「オオカミだ！」と さけんだ少年の お話

昔々、村から そう 遠く ない
暗い 森の そばで、羊飼いの
少年が 主人の 羊の 番を
していたよ。やがて 少年は、
毎日 牧場に いるのが とても
たいくつに なってきた。
「話し相手も いないし、する
ことが 何にも ないなあ！」
少年は 落ちこんで、そう
つぶやいた。できる ことと いったら、
自分の 犬に 話しかけるか、
羊飼いの 笛を ふく こと
くらいだった。

そんな ある日の こと。すわって
羊たちや 静かな 森を 見つめて
いたら、おもしろそうな ことを
思いついた。
少年は 主人から、もし
オオカミが 羊の 群れを ねらって
やって来たら、助けを よぶように、
と 言われていた。そうすれば、
村人たちが 助けに かけつけて
くれ、オオカミを 追いはらって
くれるんだ。（もし オオカミが
いるって さけんだら、村の
人たちが 来てくれる。そしたら、
たくさんの 人と 話せるし、
楽しくなるだろうなあ！） そんな
ことを、羊飼いの 少年は
考えていた。

それで 少年は、オオカミらしき
ものは かげも 形も ないのに、
村の 方に 向かって 走りながら、
声を いっぱいに 張り上げて
さけんだ。「オオカミだ！
オオカミだ！」

予想した通りだった。羊飼いの少年の さけび声を 聞きつけた村人たちは、すぐさま、していた仕事を 止めて、一目散に 走って来た。村人たちが 着くと、少年はまんまと だまされた 村人たちを見て、腹を かかえて 大笑いしている。

それから 何日か たって･･･。羊飼いの 少年は、またもや「オオカミだ！　オオカミだ！」とさけんだ。今度も また、村人たちは助けに かけつけてくれたけど、だまされただけだったんだ。

そして、ある日の 夕方の こと。
太陽が 森の 向こう側に しずみ、
牧場が 暗くなってくると、今度は
本当に、オオカミが 低い 木々の
間から 飛び出してきて、羊を
追いかけ始めたんだ。
少年は、村の 方に 向かって
走りながら、さけんだ。
「オオカミだ！ オオカミが
出た！」 村人たちには 少年の
さけび声が 聞こえたけど、もう
前のように 助けに 来ては
くれない。「もう だまされないぞ。」
と、村人たちは 話していた。
オオカミは、羊を 一匹
くわえて、森の 中へと すがたを
消してしまった。

その日、羊飼いの 少年は
大切な 教訓を 学んだよ。もし
自分の 言う ことを みんなに
信じてもらいたいなら、ぜったいに
ウソを ついちゃ いけないっていう
ことだ。

終わり

聖句：いつわりを 言う 口を
あなたから 取り除き、
曲がった ことを 言う
くちびるを あなたから
切りはなせ。
（新改訳聖書、箴言 4:24）

イソップ物語からの編集：アリーヤ・スミス
絵：ディディエ・マーティン　デザイン：クリスティア・コープランド
出版：マイ・ワンダー・スタジオ
Copyright © 2011年、ファミリーインターナショナル
“The Boy Who Cried Wolf”--Japanese
http://www.mywonderstudio.com/0-5/2011/9/19/the-boy-who-cried-wolf.html